

● 目次

- 2 ひと人ヒト (小坂康男さん)
- 3 受けて安心 がん検診
- 6 2010 能登七尾演劇祭
- 8 情報ランド (お知らせ)
- 14 みんなの本棚/児童館へ行こう
- 15 イベント情報
- 16 広がれ!市民のわ/
市長コラム/市長談話室
- 18 市民相談
- 19 休日医療情報/不用品活用銀行
- 20 国勢調査のお知らせ
- 21 まちの顔
- 22 和倉温泉多目的グラウンドオープン
/わが家のアイドル

今月の表紙

8月20日、のとじま水族館の「ジンベエザメ館 青の世界」がオープンした。水族館でのジンベエザメの展示は国内4カ所目で、日本海側初。ジンベエザメが泳ぐ大水槽は八角形で、直径20メートル、深さ6メートル、水量1,600トンと日本海側最大規模を誇る。高低差のある地形を生かして、水槽の周りをらせん状に下りていくことで、ジンベエザメを上から、横から、下からとさまざまな角度から観察できることが大きな特徴。

オープン当日に招待された、のとじま保育園の園児は「うわ〜っ、おっきい〜っ」と目の前をゆっくり横切るジンベエザメの迫力に圧倒されながらも、興味深くその姿に見入っていた。

ひと

ヒト

守るべき人がいる、
助けたい命がある。



七尾鹿島広域圏事務組合第3消防団

こさか やすお
団長 小坂 康男 さん 59歳 (中島町河内)

「団員不足は深刻ですが、さらに団員が減り続ければ、火災や災害に対応できなくなる。何とか団員を増やし、地域住民が一体となって自分たちの住む地域を守りたい」と小坂団長は訴える。

消防団員は消防を職業とする職員とは異なり、自分の仕事を持ちながら、「自分たちのまちは、自分たちで守る」という精神で、地域の安全と安心を守るために活躍している人の集まりだ。火災発生時には消火活動、地震や風水害といった災害発生時には救助・救出活動などと、住民の生命や財産を守るためには欠かせない存在だ。

七尾鹿島広域圏事務組合には第1(七尾・能登島地区)、第2(中能登地区)、第3(田鶴浜・中島地区)の各消防団があるが、充足率(定員に対する加入者の割合)では、第3

消防団が88.3%と最も低い(第1消防団94.8%・第2消防団97.8%)。阪神・淡路大震災のように災害が大きければ大きいほど、どれだけ迅速に対応しても広域的な対応には限界がある。消防、警察、自衛隊などが本格的に機能する前段階では、住民自らが主役となって防災活動を行うことが被害の軽減を大きく左右する。

「入団直後に大きな火災があり、自分でも人のために役立つことを実感した。家族構成など地域の人じゃなければわからないこともたくさんある。消防のより広域的な合併も予定されており、職員数が今後減れば、消防団の役割はさらに大きなものとなる。少しでも関心のある方は一度ご連絡ください」と団員確保への思いは強い。

問 小坂 康男 さん
☎ 66-6382 (自宅)

受けて安心 がん検診



がん検診受診率50%に
向けたイメージキャラクター

この数字は、平成21年度に七尾市の肺がん検診の結果、がんが見つかった人の数です。
この数字を見て、「たった2人だけ」と思われるかもしれませんが、
検診を受けたことで、がんが早期に発見され、命を救うきっかけになったのは事実です。

がんは、昭和56年から日本人の死亡原因の第1位となり、
年々増加の一途をたどっています。
すべての死因の30%を占めており、3人に1人ががんで亡くなっていることになりました。
また、男性の2人に1人、女性の3人に1人は
生涯のうちがんにかかる可能性があると推測されています。
早期発見・早期治療が命を左右することは周知の事実ですが、
がん検診を受ける人が少ないのも事実です。

七尾市のがん検診では、10人に1～2人しか受診していません。
それでも、検診の結果、がんが見つかる人は毎年います。
定期的に検診を受診している人の多くは早期がんであり、完治も可能です。

決して人ごとではありません。あなたも例外ではないのです。

七尾市の状況

平成21年度	がん発見数／受診者数
胃がん検診	6人／3,292人
大腸がん検診	5人／3,344人
肺がん検診	2人／3,993人
前立腺がん検診	4人／1,268人
子宮頸がん検診	1人／1,467人
乳がん検診	5人／1,520人